第４回狛江市基本計画策定分科会（第３分科会）会議録

１　日　時　　令和６年７月 31 日（水）午後７時～午後８時 20 分
２　場　所　　特別会議室
３　出席者　　委員長　渡辺　秀貴　　副委員長 加藤　雅江
　　副委員長　梶川　朋　　委　員　鈴木　京子
　　委　員　関　剛（WEB 参加）　　委　員　森高　聡美
　　委　員　宗像　秀樹　　委　員　冨田　泰
　　事務局　杉田政策室長　　中村企画調整担当主査
４　欠席者　　委　員　波瀬　公一
５　議　題　　１.【まちの姿５】現状と課題及び施策の方向性について
６　会議概要

議題１　【まちの姿５】現状と課題及び施策の方向性について

－施策１について事務局より資料の説明－

【委員】

方向性２後段について文章のつながりが分かりづらい。課題解決に向けた取組と解決力の強化は並列的な考え方で良いか。

【事務局】

御指摘のとおり並列的な意味であるため、修正する。

【副委員長②】

方向性２はいわゆる共助をまとめていただいたと理解している。後段の文言について、福祉のまちづくり協議会とあるが、正確には福祉のまちづくり委員会と福祉のまちづくり協議委員会がある。共助の文脈からすると住民主体の福祉のまちづくり委員会と思われるが確認いただきたい。

【委員長】

追加があれば改めて御発言いただきたい。続いて施策２について事務局より説明をお願いする。

―施策２について事務局より説明―

【委員】

施策２において、若年層への対応も必要だと感じるが、目指すまちの姿にもう少し表現を加えられないか。

【委員長】

更に、その表現をどの部分に入れるかによっても意味合いが変わってくる。

【委員】

また、住み慣れた地域についても改めて検討しても良いのではないか。

【委員】

住み慣れた地域で、共に支え合いながら、地域全体でとあるが、施策の方向性１と２にはあまり関係していない。

【副委員長①　】

自殺の部分でメンタルリテラシーの部分が含まれているのでそれを生かすのであれば共に支え合いにも関係してくる。方向性３にメンタルリテラシーの部分が入ってもよいのではないか。メンタルヘルスの課題は誰にでも起こりうることであり、啓発をしていくといった方向性でも良いのではないか。

【副委員長②】

自殺という言葉は非日常的な印象を与えてしまうのではないか。メンタルヘルスの話が出たが、自分事として捉えやすい文言が良いと思うが、自殺対策に関係することから入れざるを得ない言葉であるのか。

【委員長】

東京都でも自殺予防対策については情報発信している。メンタルヘルスといった言葉に置き換えることもできると思うがいかがか。

【副委員長①】

方向性３で生きづらさという文言があるためこれを使用しても良いのではないか。

生きづらさの背景として精神安定上の問題とすることと災害によるリスクを含めた方が身近な問題として捉えられやすいのではないか。

【副委員長②】

方向性の順番について、２と３を入れ替えても良いのではないか。

【事務局】

施策の現状と課題と併せて調整する。

【委員】

福祉部局において保健・健康に関する計画を策定しているが、その順番に倣うと健康、自殺という順になる。また、自殺対策については、自治体においても必要とされている。

【委員長】

市民に対しては強い言葉で示していく段階なのかもしれない。

【副委員長②】

自殺に至る前の生きづらさ等がうまく伝わる表現になると良い。

方向性１について、日常的に健康づくりに取り組んでもらうことが必要であり、その他の取組についても記載しても良いのではないか。

【委員長】

続いて、施策３について事務局より説明をお願いする。

―施策３について事務局より説明―

【副委員長①】
　方向性４について、事業者側の課題も考えられると思うが、狛江市ではどのような状況であるか。
【委員】
　事業者側の高齢化も課題であると聞いている。
【副委員長①】
　人材確保や事業者側へのサポート等の視点は含まなくてもよいか。サービスの担い手がいなくなれば在宅介護が成り立たなくなってしまう。
【委員】
　介護事業所で働いている知人の話では人材不足で業務が多忙であると聞いており、そのような視点も必要であると考える。
【副委員長①】
　長年、経営していた事業所であっても、事業を引き継がずに閉業しているところもある。
【委員長】
　情報提供や連携だけでなく、もう少し書いても良いのではないか。
【副委員長①】
　現状の把握に努めといった文言が入っても良い。
【副委員長②】
　高齢者支援に限らず、障がい者支援等、全ての施策に係る部分であるため、施策１に記載しても良いのではないか。
【委員】
　目指すまちの姿の記載が不明瞭である。
【副委員長②】
　高齢者がという言葉を入れても良いのではないか。
【委員長】
　お互いという言葉は高齢者に限らず、地域社会がお互いに配慮することと捉えられる。
【事務局】
　目指すまちの姿については修正する。
【委員】
　方向性４について、自分らしく生きるといった要素が明確に入っても良いかと思う。
　最近、看取りを経験したが、最後まで自分らしく生ていくことが大事であることを自身の経験として再確認した。市の施策として示していくことも必要であると感じた。
【委員長】
　施策４では自分らしいとしている。言葉の整理をお願いする。

【委員】
　方向性３において、元気という表現を除いても良いのではないか。
　また、閉じこもりとはどういうことか。
【事務局】
　市民意識調査において、未だに新型コロナウイルス感染症の影響により閉じこもりとなっているという結果が出た。
【委員長】
　子どもにおいても未だに登校させていない家庭もある。
【副委員長①】
　ここでは、動かないことにより ADL が下がらないようにというニュアンスだと思われる。外出が思うように出来ない方への支援や運動する機会、機能低下を引き起こさない等、書き方を変えても良い。
【副委員長②】
　高齢者の中の一定数では社会とのつながりがない方もおり、実質的に閉じこもりになっている。それぞれのペースで社会につながれるといったニュアンスであると考えられる。
【委員長】
　閉じこもりという表現は正しいか。
【委員】
　正しい。閉じこもると体力低下、フレイル状態になりがちであり、それらを防ぐ意味合いである。
【委員】
　社会とのつながりが少ない状態であってもそれが自分らしい生活と感じている方もいる。生き方としては閉じこもりは否定できないが、フレイル予防としては閉じこもりを防ぐ意義がある。
【事務局】
　フレイル予防として閉じこもりを防ぐような表現に修正する。
【副委員長①】
　フレイル予防として項目を出しても良い。
【委員】
　高齢者には伝わらない表現かもしれない。
【副委員長①】
　基本計画をきっかけとして知ってもらうことも必要である。
【委員長】
　言葉の解説を加えた方が良い。続いて施策２について事務局より説明をお願いする。
―施策４について事務局より説明―

【副委員長①】
　アクセシビリティ等も出てくるため、用語集が必要であると考える。
【委員】
　方向性１において、障がい者等の重度化とあるが、障がいの重度化の方が良い。
【副委員長②】
　障がい者の社会参加も重要であり、項目として設定することはできないか。
【副委員長①】
　方向性３のタイトルを障がい者理解の推進と社会参加としても良いのではないか。
【委員】
　障がい者支援においても事業者の人材不足等は課題として挙げられることから追記をしても良いのではないか。
【事務局】
　前回の議論において施策１は、総論的な要素が多いため１番目にした経緯もあることから、施策１に含める形で修正を行う。
【委員】
　方向性３のタイトルについて、理解の推進よりも促進が正しいのではないか。
【副委員長②】
　障がい者理解という文言については、いかがか。
【事務局】
　福祉計画では、障がい者理解の推進という施策がある。
【委員長】
　障がい者理解の促進でも良いのではないか。また、社会参加についてはいかがか。
　障がい者理解と社会参加の促進等も考えられる。
【委員】
　障がい者と障がい者等の違いはなにか。
【委員】
　大人という意味での障がい者と子どもという意味での障がい児を含めて障がい者等と使う場合や障がい者本人と家族を含めて障がい者等とする場合があるため整理をすべきである。
【事務局】
　文言の整理を行う。
【委員長】
　続いて、施策５について事務局より説明をお願いする。
―施策５について事務局より説明―
【副委員長①】
　現状と課題の５つ目について、再犯者の視点で書かれていることから新たな被害を生

まないという文言は不要であると考える。

現状と課題の１つ目について、個人的な思いではあるが、自立を求めすぎるのではなく、依存しながら生きていくことを認める部分があっても良いのではないか。

自立をサポートする仕組みを用意しますといったニュアンスが考えられる。

【副委員長②】

東京大学熊谷晋一郎先生も自立は一人きりで立つことではなく、様々な依存先、頼れる先を持ちながら生きることが本当の自立であり、一人きりで生きて倒れるより、支えてもらうことで傾いていても支えられるといったこともあり自立について福祉の分野でも見直されつつあるが、現状としては、自立は一人で立つというメッセージが強いと思われる。

【副委員長①】

依存先の分散が自立とも言われている。

【委員長】

教育の分野でも同様であり、自立的な学びといったときも必要な時に誰かと協働する、誰かに支援を仰げるということ自体が自立であるという捉えである。

【委員】

世間のイメージとしては、今まで頑張ってこなかったから生活保護を受給していると捉えている方もいるかもしれないが、実際には、高齢や障がい、疾病等の様々な状況からやむを得ず受給している方もいるため、悪い印象にならないような記載が必要である。

【副委員長①】

方向性１について早期発見が強い表現に見える。早期支援につながるような表現の方が良いのではないか。

【委員】

ここでの早期発見は、地域において支援や制度を知らずに大量の借金や我慢のし過ぎによる体調悪化、救急搬送に至ってしまう方に対してそのような状態に至る前に行政でいち早く把握するという意味合いがある。

【副委員長①】

例えば困窮状態にある方が早期に支援につながる取組等はいかがか。

【委員】

行政側の視点が強くなっている。

【事務局】

文言の調整を行う。

【委員長】

その他事務局から連絡事項はあるか。

【事務局】

次回は、８月 26 日月曜日 19 時からの開催とさせていただく。

【委員長】

以上で、第４回基本計画策定分科会第３分科会を終了とする。